

あかしん

各種地図調整・印刷／地理情報システム
立体地図・地図模型・地図パネル・地図掛け軸
オンデマンドデジタル印刷・大判ポスター出力



株式会社 **アルプス** 出版社

〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目15番18号
オフィスサンゴヤ 6F

TEL 052-931-1009 FAX 052-932-1312

http://www.alpspublishing.co.jp/

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861 企画・制作：株式会社 新聞ビル

元気でてくる“ことばたち”

(171)



Nobuo Murakami

村上信夫

おさまるようという願いが込められていた。特別な日に食べるものはその意味合いが重視されていた。昔からのしきたりや言い伝えを大切にしていた。先祖もすぐく大事に

1976年、「自由劇場」というアンクラ小劇場に入った。70年代のアンクラ劇団には風変わりな人がたくさんいた。殺人鬼の心情を理解するために生き物を殺してみたり、棺おけに入ってしまった人もいた。「プス！デブ！死ね！」となじられ、人格否定は日常茶飯事だった。そんな中、仲間たちとジャ

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。この4月からは、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」(毎週日曜10:00~)、ABCラジオ「osaka歴史ロマン」(毎週月曜18:35~)、月刊『清流』連載対談〜ときめきトークなど、新たな境地を開いている。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『ラジオが好き!』(海竜社)、『ことばのビタミン』(近代文芸社)、『いのちの対話(共著)』(集英社)など。

違う人になるのは楽しい

俳優 余貴美子さん

横濱が私の魂
俳優の余貴美子さんは、横浜生まれ横浜育ちで、横浜をこよなく愛している。結婚するまではずっと横浜に住んでいた。今は東京に住んでいるが、どうしても足が向いてしまうという。「地元愛が強いから、磁場のような感じ。地元の方たちとは小さい頃から家族同様のおつきあいをしてきたので、安心感もあるんです」。

「横濱は外国人も多く、異なるものを受け入れておもしろがる気質がある。そのせいか個性的な方に多く出会えたのが、女優になつてから役立ったと思います」。

「私も幼い頃から、祈るという習慣が身につけていて、今でも毎朝ご先祖さまのお仏壇に手を合わせ、帰宅したときも先にお参りします。先祖の誰一人欠けても自分は存在しないと思うので、先祖を敬うのは自分自身を戒めることでもあるんです」。

平壇ではなかった役者道

人気ドラマ『サインはV』で、ジュンサンダーズ役を演じた范文雀さんは、父方の従姉妹。身近に役者がいたので、芸能界への憧れが多少あったのかもしれない。

高校卒業後、就職先には外資系の銀行が決まっていた。演劇好きの友人に付き合っただけでオーディションを受けたら、演劇の舞台すら見に行けたこともなかったのに、余さんだけが合格した。



俳画/イネ・セイミ

ロダクションを設立した。自分たちでデモテープを作って、テレビ局に売り込みに行った。間借りしているプロダクション同士で、仕事のやりくりをしていた。そうこうしているうちに、今の事務所の社長の目にとまり、ようやく映画出演のチャンスを手にしたのだった。

映画のオフアワーが舞い込むようになってからの活躍は目覚ましい。『学校Ⅲ』でブルーリボン助演女優賞、『兄弟』でギャラクシー個人賞、『ホテルハイビスカス』でヨコハマ映画祭助演女優賞、『おくりびと』で日本アカデミー賞助演女優賞、『ディア・ドクター』で日本アカデミー賞最優秀助演女優賞。個性的な映画監督との出会いによって触発され、演技を磨くことが出来た。

女優に開眼したと感じたのはいつかと問うと、「まだ開眼していない。役者としての自分に対する疑問は常につきまとっている」という答えが返ってきた。「だめだあ〜」が口癖で、おおらかに見えるが、意外に心配性でもあるようだ。

ずっと前からその人

それにしても、底抜けの明るさから、底なしの暗さまで。包み込むような優しさから近寄りたいたいかわもてまで。殺人犯から陽気なシングルマザーまで。妖艶な美女から化粧のない市井の女性まで。あらゆるタイプの女性の人生を演じ分けている。

違う人間を演じるおもしろさが俳優

ラジオが好き!
村上信夫
好評発売中



イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳優家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時〜三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三三)〇四七〇

何か始めたいと思ってる貴女へ、数年後、素敵にフルートを奏でる姿がそこにあります。楽しく個人レッスンを致します。
講師 イネ・セイミ (フルート奏者 指導歴30年) (レッスン・1時間5,000円(チャイム付))
申込み 0569-89-7127
お問合せ seimine@oasis.ocn.ne.jp

慈愛の人・良寛(91) 杉本武之

良寛と宮沢賢治(その12)

3回に亘って、良寛と賢治にとって大切な経典であった『法華経』の概要、良寛の『法華讀』(賢治の『法華文学』について書いてきました。

今回は、宮沢賢治の生涯における大事件であり、賢治を完全無欠な聖者として崇拜している人たちが賢治の唯一の汚点と考え、できたら避けて通りたいと思っている『国柱会』と家出上京に

賢治と国柱会

賢治は、24歳の正嘉三年10月に国柱会に入会し、37歳で死ぬまで会員でした。後年はやや疎遠になりましたが、国柱会の影響は無視できないほど強いものが残っていました。



国柱会館

「国柱会とは、専ら国聖日蓮大士の解決唱導に基づき、日本建国の元意たる道義的世界統一の浩猷を発揮して、一大正義の下に四海の婦を一を早く、もつて世界の最終公明、人類の究竟救済を実現するに努むるを以て主義と為し、之を研究し之を体現し、之を遂行するを以て事業となす。」

日蓮の「一天四海皆帰妙法」と神武天皇の「世界一家六合一都を結合したような宗教団体でした。創始者の田中智学は、昭和2年に神国日本のアジア侵略のスローガン「八紘一宇」を考え出した人物です。今から考えると、明治、大正、昭和の戦争と侵略を煽った重要人物だったことが分かります。その「戦争と侵略」を扇動した張本人が創立した国柱会に、宮沢賢治は入会したのである。そして、大正10年1月、国柱会で働くために無断で家を飛び出したのです。どうして賢治は、こうした無謀なことをしたのでしょうか。

の著述を読んでおり、賢治はますます日蓮や国柱会に傾倒していききました。18歳の時に『法華経』を読んで感動した賢治は、父親の浄土真宗の世界と対立することになりました。しかし、攻不落の父親と戦おうとしたのです。国柱会が国家主義的な危険な行動を取っていることを承知しながらも、切羽詰まった賢治は、25歳の時、無謀ともいえる家出を敢行したのでした。

その時の様子、賢治は、親戚の関徳弥(賢治と同時に国柱会に入会していた)に次のように知らせています。「何としても最早出るより仕方ない。明日にしようか。明後日にしようかと23日(大正10年1月23日)の暮れ方、店の火鉢で一人考えておりました。その時、頭の上の棚から御書が二冊とも、ぼつたり背中へ落ちてきました。さあ、もう今だ。時計を見たなら4時半です。汽車は5時12分です。すぐ台所へ行って手を洗ひ、御本尊(入会時に国柱会から授けられた十界曼荼羅)を箱に納め奉り、御書と一緒に包み、洋傘を一本持って、急いで店から出ました。」

親友との決別

しかし、その1ヵ月前に、賢治は親友・保阪嘉内と決別した。保阪は、賢治の人生において、妹のトシと同じくらい重要な存在でした。現存している賢治の手紙は48通です。東北砕石工場主の鈴木東蔵への業務報告が117通。父親の政治家に出した手紙が95通。そして、友人の保阪への手紙が72通。

トシが入院したの知らせを受けて、母親のイチと上京し、看病します。この在京中に、前年に落成した会館を訪れ、田中智学の講演を25分聞いています。それ以前に、田中智学の『本化撰折論』などに

法華経の抽象的世界だけではあらず、点で優位に立つ父親には太刀打ちできませぬ。そこで賢治は、日蓮という行動者を選び、さらに国柱会という過激な行動団体に参加し、そこを誓として、難

保阪嘉内は、賢治と同じ年代で、山梨県出身の盛岡高等農林学校時代の学友です。賢治たちと同年誌「アザリア」を出していましたが、そこに発表した過激な文章のため

に退学処分を受けます。保阪は北大を受験しようとするが、勉強が苦しく、結局、間もなく母親が他界。母の死を機会に受験を断念し、故郷で農耕生活を始めることと決意します。一方、賢治は卒業後、家業の手伝いをしながら、悶々とした日々を送っていました。学生時代から、賢治は、保阪に法華経を信仰するようにと激しく誘いをかけていました。

知多の新鮮たまご発酵ケイフン (有)知多エッグ

大阪屋葬祭 常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール TEL<0569>35-4949 (代表) FAX 35-4911

この指とまれ(202) 氏原朝信 「班別新聞」と学級通信・文集「スクラム」(8)

「班別新聞」と学級通信・文集「スクラム」(8) 氏原朝信 二学期になって新しい班をつくりました。

男女あわせて四十一人だったのに、四十人になってしまいました。男子二十人女子二十人と同じになりました。

梅千新聞(10月3日付) 「青空歌集」 朝の会や給食の前の時間を利用して青空歌集の歌を歌うことにしました。歌を全部、おぼえよう。

カタカタ新聞(9月10日付) 二組男子対四組男子のソフトの試合 九月十九日の六時間目にソフトボールの試合を行なった。その結果は、A組・9対6で勝ち B組・10対10で引き分けでした。

長澤晶子のSPEED★COOKING! 簡単! 豆乳豆腐汁

作り方 1. 鍋に(A)を入れ中火にかけ煮立ったら(B)を入れる。その後、弱火で1分煮て火を止めそのまま(C)が沈むのを待つ。

- 常滑市市民文化会館 平成25年 常滑市成人式十三日(日)開場 午前十時 開演 午後一時

学習室I 対象 市内在住在勤の人 定員 三十名(定員を超えた場合は抽選) 受講料 無料

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (21) 岡田 清治

不倫
部屋はムードランプだけでうす暗い。前島は音楽のスイッチを入れた。

白いカーテンを通して横浜港に映るネオンがロマンティックなムードを高めた。天野は窓のカーテンを少し開けて眼下を見下ろしていた。

「素敵な夜ですね」
そばに前島が寄り添っていた。
「ダンスをしようか」

「…」
天野は自然と前島の差し伸ばした右手を軽く握り、片方の手を肩にのせた。

曲はブルースであった。
二人は手を強く握っては、しばらくすると緩めたかと思うと再び一段と強く握った。天野の手がしっとり濡れている。

「男は女の顔や気立てに惚れるが、女は男が女に与える喜び、つまりはセックスに惚れる」という定説がある。何であのふ男が美女に持てるのかと不思議に思うことがある。それはこの定説を思い出すと理解できるだろう。

天野は酔いも重なって気分はずっかり昂揚していた。抱いてほしい」という性本能を無意識のうちに感じていた。体全体がほてっている。

前島はチークダンスをしながら体を強く合わせるように抱き締めた。天野が燃えているのが伝わってくる。耳たぶにそっと唇をあて、あまり間をおかずに耳の内側に舌を滑らしながら愛撫すると、天野はビクッと緊張したかと思うと、のけぞるような体形になりながら心地よさを感じていた。頃合いを見計らって外耳道の奥深くへと舌を入れると、天野は大きく体を揺るがすようにして「ああ」と大きなうめき声を発した。

やがて天野の姿勢が元に戻ると前島は口づけをした。はじめは軽くしていたが、そのうちディーブキスを続けた。

天野は全身でもだえるようになり、二人はベッドに倒れた。白いシーツの上で次々と衣服や下着をはぎ取って抱き合った。二人は何もかも忘れ激しく燃えた。前島は初めてセックスの素晴らしさを知った。もう天野聖子とは離れられない。

天野は初体験でなかった。学生時代に経験をしていたが、これほどロマンティックなムードの中でのセックスは初めてであった。まったく新しい経験のようで新鮮であった。しばらく酔いも重なって夢心地の気分にはたっていた。

前島は我にかえると、すぐ浴室に入ってシャワーで体を洗った。再びベッドに入りそのまま朝まで眠った。

朝、部屋の照明を明るくすると、隣のベッドにいた天野の姿がなかった。

テーブルに「早目に失礼します。ありがとうございました。聖子」とメモ書きが残っていた。

「なんとすてきな女性だろう」と、前島はメモを握りつぶしながら昨晚の出来事を振り返っていた。次の瞬間、天野はなぜ、体を許したのだろうか。どちらかと言えば、彼女の方が積極的だったような気がする。「俺を独身と思っているのだろうか」と、うまく行きすぎた不倫行為に影を感じるが、すぐあの女性を離したくない」という気持ちが高まる。

恵美とは早晩離婚する気分が支配的であったので、それほど罪の意識はない。天野は自分と結婚するつもりで体を許したのか。

「庶務の女性がかつて社内不倫のことを教えてくれたが、俺もそのうち彼女らのネットワークの組上に乗せられるのか。そんなことになれば会社におれなくなる。天野を得意先の接待に同席させ、しかも二人で一夜を過ごした経費はすべて社用扱いにしている。ばれると処分の対象になりかねない。」

ホテルで朝食をとりながら、天野との逢瀬は続けても、恵美とは離婚して身ぎれいにしておけば問題はないと、自分流の解釈をする。それでもやもやの気分が消えていく。

朝、会社に出ると、天野はすでに席についていた。
「おはよ」
「おはようございます」
天野は昨日と同じグレーのツイードの服装であった。昨夜のことは何もなかった顔を見せていた。
「おい、今日の経済紙の記事、読んだか。だから全体会議の招集を昨日から呼びかけていたのだな」
同僚のYが前島の席にやってきた。
「本当か」
「お前には電話なかったのか」
「なかった。おかしいな。携帯の電池が切れている」
「直行届をしていない者には電話がなかったさうだ」
「ところで、記事にはどういふ内容が書かれているのだ」
「うちがE社と半導体部門で提携するというのだ。近い将来、別会社にして独立させ、両社の半導体部門をそこへ移行させるさうだ。そのため提携準備委員会を発足させると書いてある」
「どうして」
「要するに国内の半導体は設備過剰の上、汎用性の半導体で韓国や台湾に追い上げられ、急速に国際競争力を失いつつあるからだと」
「ダウンサイジングの大波が来ているのか」
「さういふことだろう」
「お前、そのことを知っていたのか」
「先日、お前を誘って飲んだ時に、近く何か起こることを予告したはずだよ。俺も明確な情報を持っていて話したわけではない。要するに勘だけでさう思ったまでだ」
「それはさうだが、それはもつと先のことだと言ったではないか」
「俺もこれほど急転直下、事態が変わるとは想定していなかったよ」
「だから両社の幹部は今日の記事を会社ガリクしたことを事前に知っていたのだな。さうでない昨日から全体会議の通知はできないはずだよ」
「そのうち得意先から記事についての問い合わせの電話が鳴りだし



ホイアン(ベトナム)のレストラン(著者撮影)

「我々も寝耳に水なのです。いままら会議がありますので、そこで詳細についてわかっておきます。後ほど、連絡します」
天野も前島が電話中の時は、代わって電話応対をしていた。
「後ほど、前島から電話をしてもらいます」
「昨日お会いしましたN社の担当者の方ですが、水臭い」と言っておられました」
「さうだな。怒られても仕方がない」
部長や次長は席にいない。早朝から会議を開き、全体会議の前に情報を伝えられていた。十時近くになって二人の幹部は席に戻ってきた。
「十時からホールで全体会議を開きますので、庶務の人を残して集まってください」
会議では常務取締役研究所長がマイクの前に立った。
「本日の記事を見られて驚かれたかもしれませんが、記事は概ね正しいのですが、実際は提携や別会社にするとはさうと先のことで、とりあえず両社で検討していることになったのです。したがって、皆さんは冷静になって、これまで通り業務に専念してください。」
会議はわずか五分程度で終わった。
前島らが席に戻ると、部長が「今後、両社間で話し合いが進展しましたら、ご連絡しますので、外部からの問い合わせには、さういふ話

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」日本のゆくえ「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971
メール: takamitsu@akashi-shinbun.net

プロフィール

著者：岡田清治おかせいじ

一九四二年生まれ ジャーナリスト (編集)ロダクション・NET108代表 著書に『高野山開創二百年 いっぱいさん行状記』『心の遺言』などは社員の全能力を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数



(続)

『旧年中はいろいろと…』

柴 信次／藤間勘萃



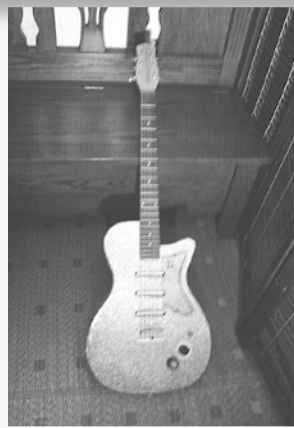
勘萃の

正月早々「おいつ、起きとくれよっ！起きとくれよったらっ」と落語『芝浜』の出だしみたいに電気ギターは叩き起こされたのだ。おいつ、起きとくれよっ！



写真提供：岡 茉莉

やがてメンバーそれぞれが社会へ漕ぎ出し、家庭も持つようになり、いよいよバンドなんぞやってられなくなったのが30歳を過ぎた頃。というわけで、この電気ギターは24年もの間、部屋の片隅でふんわかしたカバーにくるまって、すやすやと寝息を立てていたのだが…。



よっ！起きとくれよったらっ！と言ったのは、大阪のシンガー・ソングライター岡茉莉(以下は仲間うちでの通称マリアンヌ)で。

以前からぼくは彼女の曲作りやアレンジを手伝っていたのだが、彼女の相方(ギター担当)が突然の活動休止…！そこで急ぎよぼくがこの寝ぼけまなこの電気ギターを引っ提げてアレンジャー自らマリアンヌと舞台を共にすることと相成ったわけ(よしゃあいいのに)。マリアンヌが次々と作詞・作曲しては持ってくる歌を片っ端からアレンジしてそれを彼女のボーカル&ぼくの電気ギターだけで舞台上に掛けようってんだから、そりゃあもうあんなねえ(失礼しました)、大変でしたとも。



映像提供：おんぶ館

1月18日(木)、大阪のライブハウスKnaveで旗揚げするつてえと、その後は、2/20 Knave (大阪)：3 / 8 Knave (大阪)：3 / 24名古屋市天白文化小劇場『おんぶ館』コンサート(写真)：4 / 18 Knave (大阪)：翌4 / 19 CD『無添加3』に収録する『PAO』をレコーディング：5 / 3 高槻ジャズストリート(高槻市)：5 / 12 栄ミナミ音楽祭(名古屋)：5 / 28 Knave (大阪)：とまあ、そこそこの繁盛ぶり(?)だったんですが…。今度マリアンヌ自身による突然の休業宣言！でも、その訳が「神様から授かりものをしたんです」ってえんだから、これはもう、ただただ目出度いばかり。



映像提供：knave

7月9日(月)、Knave (大阪)での節目のライブは、これもあろうに藤間勘萃が祝いの『えび』を踊って前座を務め(写真)、着物のまま電気ギターを弾いたという(写真)、「よっ、待ってました！宮川左近ショー(例えば古すぎ?)」ってな具合になったのでございます。

※『おんぶ館』は、ぼくが毎週日曜に出稽古に向う中(名古屋・昭和区)にある音楽教室です。



写真提供：ライリスト社

7月7日(日)、東建ホール(名古屋・中区)で、ライリッシュ・オカリナ連盟主催による『満点の空に輝くオカリナの音色』と題されたコンサートが開かれた。ライリッシュ・オカリナ連盟は、音楽を

中心に豊かな生活を提供する、「音楽性を重要視する」、「地域文化の向上に参加する」といった3つの理念のもと、北海道から沖縄までの津々浦々でオカリナの普及と生涯学習の発展に寄与し、平成21年には創立15周年を記念した650名によるアンサンブル演奏で「ギネス世界記録」を達成している団体である。

ぼくは、この日のフィナーレのために『バルディの四季』をメドレーで編曲し、『四季』：じゃなかつた指揮もさせていだいた(写真)。

題して『バルディとめぐる四季』。当日のパンフレットの中で、「何しろ45分にも及ぶこの大作を、4分ほどのメドレーで…ということだから、バルディ氏もさぞかし忙しい1年を送ることだろう」と言い訳しながらのことだった。



ぼくはクルマを持たない。それどころか運転免許証すら持たない。これを耳にすると誰も彼もが「へえ、今どき珍しいですわねえ」と、まるで絶滅危惧種にでも出喰わしたかのように驚いたり感心したりする。

生まれてこの方というものの、この絶滅危惧種的なぼくは、名古屋の真ん中近くで生き長らえてきた。栄へ出るにも名古屋駅へ出るにも自転車でも十分足らず、これじゃクルマなど要るわけがない。

季節折々の空気や通り掛かる街々の匂いを全身に感じながら、車道だろうが歩道だろうが、一方通行の道であろうが「すい、すいすい」：自転車は、日頃の舞台やアトリエでの仕事(メットとの追っ駆っこ)で溜まる疲れを癒すべく、とつてのビタミン剤なのである。

そんな自転車少年：じゃなかつた自転車、そんなのぼくの愛車が、夏のある日壊

れてしまった。何しろ胴体がへし折れちゃったのだから、これはもう修理のしようもない。慌てて近所の自転車屋さんへ駆け込み、あれこれ吟味した挙げ句に連れて帰ってきたのがこの小振りな自転車(写真)。前のが16インチのタイヤ／5段変速だったのに比べ、今度のは20インチのタイヤ／7段変速：クルマでいうところの「走りが違う」ってやつだ(とはいっても普通の自転車は26インチのタイヤだからねえ)。

そんな新しい相棒のことが嬉しくて、ぼくは夏の間は何度か「スタジオ・レチア(稲沢)での出稽古へ片道1時間45分ペダルを漕いで出向いた。

行きは間に合わないといけなかったので、鉄板コース：金山から北へ向けて走り、浅間町で左に折れて国道22号に入ればあとは一本道、それはやがて国道67号となつて庄内川を渡り、西枇杷島で踏切を渡り、新川を渡り、キリンのビール工場を左手に見て、清洲城も左手に見て、そのあたりで国道67号は国道190号(岐阜街道)となり、トヨタ自動車工場の部品工場を左手に見て、あとひと踏ん張りするとJR稲沢駅、そうして国府宮方面へ左に折れる頃にはすっかりくたびれちまつて…とまあ、こんな道中。

夜11時過ぎに稽古を終え帰路につくのだが、何しろ帰りは時間のことなど気にせずに済む。一日の仕事を終えた開放感も手伝い、どうしたって「こは一つ知らない道を辿って帰ってやろう」という、まったくもって迷惑な冒険心が頭をもたげてくる。地図を頼るでもなくヤマ勘だけで暗く寝静まった細い道を自転車で縫い走っていく。30分も走ったであろうか、ぼくが行き当たったのは敵かな寺だった。真夜中だというのに境内は薄ぼんやりとライトアップされ、塔や朱塗りの建造物が「ぬうっ」とばかりに浮かび上がっている。そこは、かの『甚目寺観音』であった。草木も眠る頃合いだったというのに、ぼくに湧き上がったのは「気味が悪い」というより「うっ」といって「うっ」としてばかりはおられない。我に返ったぼくは、ペダルを勢いよく蹴り出し名古屋の方へとひた走った：つまり、それから10分も走ったのだ。

うか、ぼくはまた敵かな寺に行き当たった。何と！またしても先ほどの『甚目寺観音』。「変だな、確かに名古屋へ向けて走ったつもりだったんだけどなあ」少し心細くなりながら今度は違う道を慎重に選びながらひた走る。10分ほど走ったところへ、またまた『甚目寺観音』！

摩訶不思議なこの出来事を取り巻きに触れ回ったところ、ある者は「それはきつと狐につままれたのに違いないよ」と八卦見のように神妙に言い、またある者は「ああ、あの辺りね、道が入り組んで真つすぐじやないからね」とプラットホームの駅員さんのようにシレッと言うのだった。

わらべうた『通りゃんせ』、この唄はこう閉じられている。

いきはよいよい かえりはこわい
こわいながらも 通りゃんせ
通りゃんせ

※『スタジオ・レチア』は、ぼくが月3回出稽古に伺う国府宮(稲沢)近くにあるレッスンスタジオです。

そうこうする8月初めのある昼下がりに、ぼくはある百貨店のちよつとしたスペースで仕事の打ち合わせのための待ち合わせをしていた。車で向かって相手の到着が遅れ30分以上立ち尽くすぼくに、すぐ脇にある洋服屋さんの女のスタッフが顔を覗かせて「そうでした、首を傾げる…そうでした、首を傾げる…」と、そこは婦人服のフロアだったんですから。ぼくは、その女の口の可愛らしさに惹かれた。

あくる日、朝からアトリエに籠って仕事をしていたぼくの前で、時折「あの女の口はどれくらい可愛らしかったか？」というふんわかとした疑問が浮かんだ。消えたりした。午後になり、ぼくの電池が切れかかると、とうとう五線紙の上にも一つも音符がこぼれ落ちてこなくなった頃、「ようしつ、こはひとつあ女の口をもう一度見に行ってみよう」と、真新しい自転車を走らせた。その百貨店まで15分、日頃の(自転車での)散歩コースが変わるだけのことだ、こまではいたしたことじゃあない。その女の口は見当たらなかった。ぼくは、前の日と同じ場所で、そこに設えられたソファに腰を委ねて30分ばかり読みかけの文庫本に目を走

らせ、別のフロアにある喫煙所で煙草を1本だけ吸ってその日の散歩を終えた。ぼくは結局8月のうちに12回そんな散歩を楽しんだ。その女の口は居たり居なかつたりしたが、それはもう、54歳のぼくの夏休みのクラブ活動(部活)のよななものになっていったのだ。「待てよ？

夏休みの部活があるんなら、夏休みの宿題つてもあるんじゃないか？…そうだつ！何十年ぶりの夏休みの部活をぼくにプレゼントしてくれたあの女の口に、音楽を一曲書き下ろしてお返ししよう。その日のうちに4分半ばかりの長さの曲がスケッチされ、次の日にはそれはピアノ曲となり…その次の日には打楽器+2本のホルン+弦楽四重奏+鉄琴でメイクアップされ、マッキントッシュ・コンピュータによる演奏でCDとなった。「せつかくの夏休みの宿題だ、プラスチック製ケースに入れたんじゃないかと愛想がない」と、ぼくは女の口向きの雑貨屋さんで買って来た深緑色の紙製カバーにそれを収めた。これで準備は万端。あとは、ちゃんと渡せるかどうかだけだ。

9月になれば夏休みは終わる。8月31日は折悪く仕事で大阪へ出向くことになったので、期限は1日早い30日だ。結局のところその夏休みの宿題は、期限ギリギリの8月30日に夏休み女の口へ手渡しすることができ、ぼくの54歳の夏休みは上出来なものになった。ある百貨店の婦人服のフロアにある洋服屋さんへ「ゴメンクダサーイ」と入ったことを別にすればね。

11月7日(木)、名古屋市緑区文化小劇場(名古屋・緑区)で開かれた『堀之内理恵(写真)パロクハープ&アイリッシュハーブコンサート』に足を運んだ。



写真提供：堀之内理恵

弦を3列に張り、2メートルを超えた背丈で、300年の時を経て現代に蘇ったパロク・ハープ(写真)が「日本初お目見え！」とあっては、同じ時代の楽器パロク・リユートを弾くぼく(タイトル写真)にとつて興味津々、聴きそびれるわけにはいかない。

幕開き一番、枯れた味わいのするその音色がホールに降り注いだ途端、ぼくからは音楽家としての下世話な好奇心が消え失せ、その代わりに、まるで幻灯みたいに「すうーっ」と現れた300年の昔のイタリヤの人々の暮らしや思いを見ただけだった。

パロク当時の曲に続き、ぼくのピアノ曲：『大沢池畔の桜雨』、『大沢池薄暮』、『むくげ咲く民家』、『仁和寺遠望』も弾いて頂けた(パロク・ハープで)。京都を音けしきに紡いだ曲たちにとつても、作者のぼくにとつても恭拝至極なひと時だったなあ…。



古今亭志ん生の落語に『おかめ団子』という江戸の人情噺がある。

寝たきりの母親をかかえて大根を売って歩いている正直で気立ての良い若者。毎日の仕事を終えると団子屋に立ち寄り母親へのみやげ(団子)を買って帰る。団子屋は一人娘「おかめ」の人氣で大繁盛している。ある晩のこと、体を痛がる母親を思い遣って「もつと柔らげえ布団に寝かせてやりてえなあ、でも銭が無えしなあ」と思い悩むうち、ついに団子屋に泥棒に入ることをつい

づく。真夜中、その庭先へ忍び込むと、気の乗らない縁談に悩む「おかめ」が、松の木に紐を掛けて命を絶とうとする場面に出喰わす。必死で引き止めるうち、その主夫婦に見つかり、正体もバレしてしまう(何しろ常連だから)。主はその孝行ぶりに感心し(泥棒に入ったにも関わらず)、「おかめ」も「この人となら」。若者は婿養子を迎えられ、病気の母親も不自由なく暮らしましたとさ…。

落語つてえやつは、笑ったり泣いたり大人ののお伽噺だ。

『おかめ団子』に倣ってというわけじゃあないのだけど、毎年秋の恒例『ドームやきものワールド』へ母親を連れ立って行って来た。手足の痺れを患っている母親を時折ベンチで休ませながら2時間ばかり掛けて会場を巡り、母親はお盆を、ぼくは唐津焼きの湯呑み(写真)を買った。

その数日後、『福手』さん(名古屋・中村区)へ金継ぎでの直しに出していた秋焼の湯呑み(写真)も戻って、その日からしばらくの間、これら二つの湯呑みを取替え引替えては、それはもう胸焼けのするほどお茶を飲み続けてました。

11月29日(木)、宗次ホール(名古屋・中区)で開かれた『美しき夕べ』ドビュッシー生誕150年によせてと題されたコンサートに出掛けた。

この日の出演者であり、ぼくの20年来の共演者でもあり、また、『柴BAR』(ぼくのアトリエ)の常連でもある吉田浩司(名古屋フィルハーモニー交響楽団の首席ピオラ奏者)からの頼みで、ぼくは当日のパンフレットに4ページにわたる解説文を書かせてもらっていた。コンサート(の解説文のこと)だけじゃあ、ついでに藤間勘萃(信次)の解説文も書いてもらって、それだけじゃなく藤間勘萃になりきって(それ



写真提供：koji吉、写真撮影：加藤明久

てドビュッシーとのギャップ?)書いてもらえねえかなあ?」(こうまで彼が江戸っ子だったわけじゃないのだが)そんな要望もあって、最新式の携帯電話にスマートフォンを着信音を柳家喬太郎の「出陣」(まかしよ)にしているほどの落語好きなぼくが書いた江戸っ子版『ドビュッシー解説』はこんなふうになった。

聞いてもいないコンサートのことを前もって書くのだから…。

「ドビュッシーは印象派の作曲家である。…なんて言われておりますが、この印象派ってのは(中略)一言い換えればそこはかとなくということになるんでございませう(後略)」

そして『配役紹介』とした出演者紹介の中では、

ソプラノ(人の声)、フルート(管楽器)、ハープ(撥弦楽器)といった面々を取り持っているのは、吉田浩司演じるピオラ。大工というなら棟梁だつてえんだから、こいつあ実在にいたい。で、具体的に何がしたいか?つて、何がありたいんだか分からないところがありがたい。でも、そういうのがピオラの持ち味なん

でございませう

と書きたい放題どうだ、参ったか? そんなことをよそに、橋本千波、神谷知佐子、橋本岳人、吉田浩司のお四方は、ちつとも参ったふうでもなく上品に、そしてそこはかとなくドビュッシーを演じていたのでございませう(写真)。

コンサートのおしまいに『ロマンス』という曲が4人揃って歌い奏された。「これで今宵の舞台も幕」と思いきや、曲が終わると歌い手だけが舞台から去り、その後もう一度同じ『ロマンス』がフルート、ピオラ、ハープだけで演奏されたのだ。まるで去って行った恋人を慕うかのようにリフレインされた『ロマンス』(曲の終わりがけから照明がだんだん暗くなり始め、やがてステージは真っ暗に…『美しき夕べ』コンサートのエピローグは、まるで恋愛映画のラスト・シーンみたいだった。

ぼくは、あの『夏休みの部活と宿題』のことを誰かに打ち明けてみたかった。今となつてはこの文章を目にする方々すべ

そこで、40年来の親友である加藤(文末)プロフィール参照に…。

(落語に登場する江戸っ子よろしく)「おめえ口かてえか?」と念を押すぼくに、(やはり落語好きの彼は)「おうつ、おれあ口かてえよ。言うなつたらあ言わねえんだからあ」と、調子よく返したのだ。だが…それからというものの、ぼくに会う人会う人がみな口を揃えて「勘さんはスゴいねえ(ニヤニヤしながら)…何たつて若々しいやね(笑)を噛み殺しながら)…なかなかあんなことあてできるもんじゃないやね(今にも吹き出しそうになりながら)…よおつ、色男つ」と言うのだった。

あれほど「おめえ口かてえか?」つて念を押したというのに…「おうつ、おれあ口かてえよ。言うなつたらあ言わねえんだからあ」つて言ったくせに…だのに。



◆プロフィール
写真・加藤明久
1958年、名古屋に生まれる。

中部写真プロダクション(株)にて、「コマ」シャトル・フォトや行政のポスターなどを数多く手掛ける。フリーを経て現在、東海写真スタジオ株式会社代表取締役社長。ちなみに、ふたりは、高校の同級生。おまけに加藤の細君も同級生。

文・柴 信次(しば しんじ) / 藤間勘萃(ふじま かんすい)

1958年、名古屋に生まれる。高校在学中より舞台上に立ち、名古屋音楽大学にて作曲を専攻する。作・編曲家としてオペラ、ミュージカルから演歌まで幅広く手掛け、演奏家(パロク・リユート、チェンバロ) / 日本舞踊家(宗家 藤間流名執)としてNHK教育「日曜美術館」、NHK開局70周年「花の舞の宴」などの放送や舞台上に数多く携わる傍ら、エッセイも執筆する。

日本福祉大学講師(1984~2003年、2008年)を経て、現在、アイリッシュ・オカリナ連盟音楽顧問、琴修会(大正琴音楽顧問)。

作り手と使い手を結ぶ工芸の森

見世 広場 工房
SHOP PLAZA LABO

画廊 市場
GALLERY MARKET

方円館



〒479-0003 愛知県常滑市金山字上砂原123 とこなめ焼御団地
TEL 0569-43-7101 FAX 0569-43-7104
E-mail hoenkan@ceramall.or.jp

Cafe

Shop

Gallery

家具工房

建築・民家再生

ハク タケ モク ザイ

白竹木材(株)

〒447-0863 Email.hakutake@katch.ne.jp
碧南市新川町6丁目8番地 TEL.0566-42-3266

電動ロクロコースもあります。親切、丁寧に指導いたします。



【施設のご案内】

まるく
1F●やきもの展示即売
●「おとうふ工房 いしかわ」
とうふ、パン、ぎらすあげ等 販売

2F●110名の陶芸教室
●電動ロクロコース 絵付け 手ひねり等

セビカ
1F●やきものギャラリー セビカ
月2回 個展開催

大駐車場完備

〒479-0832 愛知県常滑市松原町6丁目66番地の1
TEL(0569)35-2209 FAX(0569)34-5745
●年中無休 ●営業時間 AM9:00~PM5:00

知多四国めぐり
関連書籍販売しています



総合印刷物企画・プランニング・デザイン・印刷・加工・オンデマンドデジタル印刷・デジタルメディア企画制作

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21 TEL (0569) 29-2525 (代) FAX (0569) 29-4500
URL <http://www.handa-cp.co.jp> E-mail main@handa-cp.co.jp

グループ会社
プリ・テック株式会社 ●プリテックメディア株式会社 ●トーヨー印刷株式会社

- ・常滑陶芸作家特選50人による陶芸作品
- ・古布・ちりめん小物
- ・布製カバン・ボタン多種
- ・創作服など

常設展示しております。
《定休日のお知らせ》
毎週水・木曜日、第1・第3土曜日



陶芸サロン
陶美園 ☎(0569)35-2320

〒479-0838 常滑市鯉江本町6丁目36番地

Quality Foods

イシハラフードは お客様と共に
「安心」「安全」「おいしさ」を食品を通して考えています。



確かな味、信頼の品質、地元商品の育成。
わたしたちには「こだわりの商品」がたくさんあります。

恒例の白老 酒蔵開放のご案内

酒蔵弁当好評受付中 古式伝承 白老

日時/2月23日(土)24日(日)午前10時~午後3時

入場料500円 名鉄常滑駅より無料送迎シャトルバスあり <http://www.hakurou.com>

特報 ゆっくりお買い物がしたい方のために
先取開放 22日(金)午後1時~午後4時

*入場無料ですが、展示、見学、糟口搾りなどの試飲、送迎バスなどはありません。

澤田酒造株式会社 常滑市古市場町4丁目10番地 TEL0569-35-4003

手造り陶雛大展示中

二階ギャラリーは陶雛でいっぱい。
ぜひ、ご覧ください。
3日から営業します。



花器専科
やまもと

〒479-0003 常滑市金山字上砂原105番地
とこなめ焼御団地セラモール
TEL (0569)43-7181
FAX (0569)43-7191
営業時間 AM10:00~PM5:00

楽しいバスの旅...

子供会・老人会・同年会 他
団体でのバス旅行は...



(株)名鉄知多バス旅行
☎0569-24-6651

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

葬儀のことなら...霊柩車から香典返しまで

誠意と真心であんしんのかけはし

CSK葬祭・瑞雲殿

常滑・青海

(株)シイエスケイライフ 常滑市北条1-34
電話(0569)35-2785 フリーダイヤル 0120-33-5909

ヨーロッパアンティーク展

アール・ヌーボー、アール・デコを代表するエミール・ガレ、ドーム、ルネ・ラリックなどのガラス工芸品やマイセン、K. P. M.、セーブル、ウィーンなど、王室窯を中心としたヨーロッパ名窯の陶芸作品、気品溢れるアンティーク・アクセサリーなど、18世紀から20世紀にわたる西洋骨董の逸品をお楽しみください。

平成25年1月23日(水)→2月5日(火)
※最終日は17時に閉館させていただきます。



ドイツ古窯
丸型美人像陶磁器 [19C 直径=17cm]



ドーム
カモメと亀文花器
[1897年頃 高さ=19.4cm]

名鉄百貨店本店[本館] 10階クローバーサロン
ダイヤルイン=052-585-2841

meitetsu
名鉄百貨店

〒450-8505
名古屋市中村区名駅1-2-1
Tel.052-585-1111
www.e-meitetsu.com

知多の動植物雑記(二九二)

原 穰

新年を迎え、今年も亦夢と希望の一年になりますようにと祈る日々。

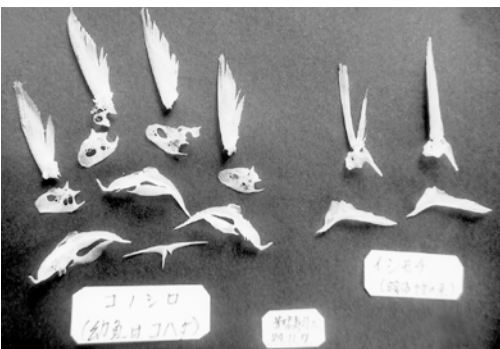
ふり返れば、戦時下に中學時代を送っていた頃は、月火水木金土、土曜日曜なしで軍需工場働いていた日々、時にはアメリカ軍の空襲で、あわや我が身を

もの体験も二度三度、まさに明日をも知れぬ我が命で夢や希望なんて考えもできなかった日々だった。

そんな我が身ながら、学生活最後に纏めた卒業論文は、知多半島の淡水魚類。特にその地理的分布で、各市町のどの川に、どんな魚が棲んでいるかを調査し纏めたもの。

あれから十一年。当時は田んぼや小川に普通にいたメダカやドジョウも、今や絶滅が危ぶまれている。

最近では川の魚の話が出るメダカついでに、聞かれたりする。でも、川の魚



宿題、やれました

あれから十一年。当時は田んぼや小川に普通にいたメダカやドジョウも、今や絶滅が危ぶまれている。

最近では川の魚の話が出るメダカついでに、聞かれたりする。でも、川の魚

大好きオジイの始めたもう一つのことは、魚の胸びれの基にある魚の形をした骨集め。これは鯛のタイと呼ばれるもので、魚の種類によって違う形をしているのが興味をそとる。

事の起こりは、ランチを食べに入った芳味寿司で、胸びの辺りをしゃぶって、魚の形をした面白い骨を見つけたことによる。興味深か気な私に、後日、息子さんはクワダ、セイゴ、チウオの鯛のタイを下さる。

そんなことから、鯛のタイ集めに没頭し始め、今や集めた数は川の魚16種類、海の魚46種類となっている。そんな私に去年の暮、芳味の親子さんがハイ宿題！と出したのがクワダ(コシロの稚魚)とイシモチ。

家で早速作業開始。でもコハダの鯛のタイに尾部分が無い。稚魚で切れたのかナと思い、草思社刊行の『鯛のタイ』を確認すればOK。黒色紙に並べ、張り付け宿題完成。おめでとー！

ちよとじやまします

伝統 玉土

吉川 壺 堂さん



将来安泰のサラリーマン人生を投げ打って、加飾の世界に飛び込んだ。そして40数年が過ぎた。やりがいがある、今までやってきたよかったです、という。吉川さんの加飾は、気の遠くなるような作業の連続だ。急須というキッチンバスに小躍りする気がして、繊細に図柄や文字を彫っていく。吉川さんは、その過程をすごく楽しんでる。

単純に純粋に彫ってみたいから、彫ってみたい。素敵だ、きれいだ、なあと、思ったものを素直に彫ってみたい。何をここに彫ってみたい、というイメージは、すぐに湧く。そして、手が動く。この絵や文字は、似合うのだろうか、迷うこともない。今までの経験から、これなら確

実にいけるという自信があるからだ。少し華やかな彫りになってしまったかな、と感じてしまうこともあるが、とびつきり高価な加飾は、よく売れる。高価なものにニーズがあるんだよ。これぞ！メイドン、ジャパンと、吉川さんの鼻息は荒い。

吉川さんの加飾は、中国や台湾の富裕層に専ら人気だ。今年も中国で個展を予定している。加飾が売れることは嬉しいけれど、生真面目に加飾業界の今後を考えたら、やはり、後継者の育成が一番の悩みの種という。加飾の後継者育成事業を現在も継続中だ。若手が育たないんだよ、ため息が何度も聞かされた。

休日には自転車をよくこき愛し、卓球、ゴルフ、野球に釣り、アウトドア感いっぱいである。週末は平日を加飾に没頭する吉川さんにとって大事なスパイスとして欠かさないようだ。(赤井 伸衣)

郷土を知る(百八十三)

奥川 弘成

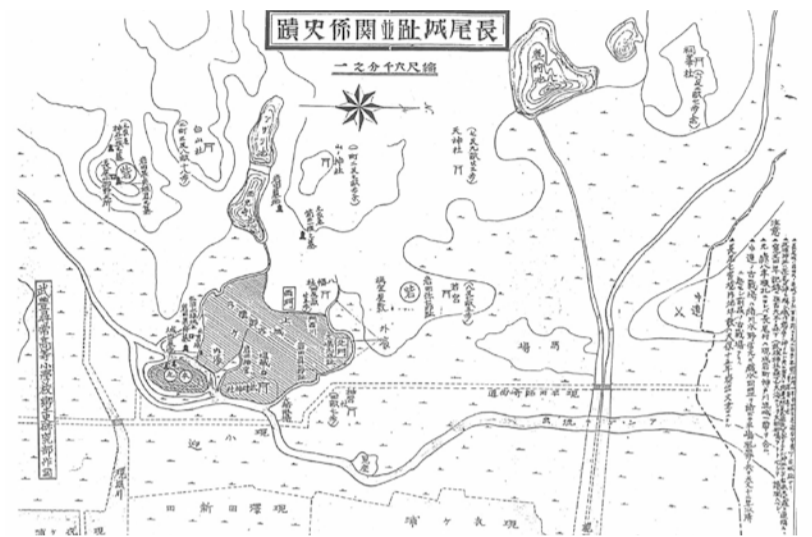
武豊町字金下、JR武豊駅と武豊小学校に挟まれた丘に長尾城があります。この丘は、かつて字上ヶや下門の集落のある丘に繋がっていたようです。

現在は、独立丘となっていて標高は6mほど、南北100m×東西40mほど周辺の低地との比高差は3~4mほどです。

この丘の基盤層は、砂礫層が主体で3cm×1cmほどの円礫を含む土層上に、礫をほとんど含まない砂層が互層となった地山です。

この独立した丘の北端は、現集落や武豊神社のある段丘に繋がっており、長尾城の築城の際に分離されて、堀川やしくは支流であった西光寺池、あざり池からの水路が囲む水堀としたと考えられています。

武豊旧町誌が次のように伝えています。



神戸川の変遷
元禄12年卯4月(1699年)庄田村(庄田)嘉右衛門「より社寺奉行所へ差出された御達書によれば、現在神戸と称せられている部落は、本町の東北端、半田市有楽町(旧成町町)東馬場・字西馬場」を中心とする土地に居住していた。この部落を東西に流れる川を神戸川と言った。すなわちこれは現在の神戸川であるが、この川はもとその源を本町の西南端、原田の山中に発して大足、長尾両村の間に流れていた。そしてこの川が長尾城および武豊神社の東を南より北に流れていた。そしてこの川が、長尾城本城の天然の堀となり、見座の東に出て村の北端で現在の石川の支流を合わせ、成岩との境界より源を発し、板山から流れ出る支流を合わせて、衣ヶ浦に注いだと寛文4年「神谷守定の奥記ある記録」により明らかである。

(地図、長尾城当時の地形並び史跡配置図参照)
しかし、尾張藩は新田開発、農業経済の確立が国政の根幹であること、藩政に意を注ぎ、寛文7年(1667年)塩瀬開設のため、犬山城主「成瀬半人正」によって、その本流を失ったのである。すなわちこの本流を、長尾村と大足村の村界において海に切り落とし、現在の堀川とした。また板山から流れ出る支流を北方に瀬渡し、現在の神戸川を作ったのである。

沖積地の田畑にとっては元凶であった悪水は、それを利用して水堀として、湿地地とした。後堅固な機能をもたせていた。長尾城の周囲は、江戸期の灌漑によって田となり、後に埋め立てられ住宅地となり、当時の地形をとどめるどころもわずかならなっている。

若竹俳壇

- 葛紅葉最後の一葉残りたり
寒灯や句作悩ます散らなり芋畑
- 錦絵のごとき紅葉の永観堂
木枯しに吹かれ散り行く議員かな
- 五十五年振りの母校や秋惜しむ
茂し望み時きし頭髪芽立ちあり
- 大和魂散るこそ花と愛国忌
秋深く千木の青錆古き宮
- お隣と話がはずみ日向き
天と地に銀杏の葉葉浄土界
- 冬將軍殊更早く罷り越す
茶の花の楚々と咲きたる尼の寺
- 路地を行くはしゃぐ子と母七五三
山茶花の赤散らばりて庭動く
- 風スクして殻に籠れり電車内
北風に吹かれるままの我が人生
- 命あるもの懐に山眠る
主婦業に終りはなく根深汁
- 大マスク黄色帽子の列すぐる
客来たり夜の馳走に根深汁
- 神々しい縄文杉の山根より
枯草揺らし特急通過せり
- 野良猫を呼べば振りむく寒き夜
木漏れ日に映える紅葉古都の寺
- 冬日落つ九重連山色変える
短日を使ひ果たして芭蕉展
- 銀杏をひろひて二人茶碗蒸し
はつ日の出地球を包むたまで箱

- 吉田ひろし
桑山 撫子
富田 悦子
藤井 文月
清水ドラ吉
江端 久恵
船坂 兼夫
中尾 節也
岩田 和弘
竹内三千彦
磯村美耶子
澤田 藤子
村井みさを
塚本 千鶴
谷川 光江
片岡 志江
浦崎ひとみ
加藤 久子
齊藤 浩美
齊藤 永子
村田 達雄
荒川 達子
村井 範子
竹内ユミ子
山中 博子
都築 信子
服部 鮎子
中村 洋子

知多半島 春の音楽祭2013

出演者 Mark Akixa(NAフルート) / イネ・セイメイ(Flute & NAフルート) MABO 雅弥(パーカッション) / 太田光宏(ギター)

2013年2月9日(日) 開演午後6時半 開演午後7時
ゆめたるプラザ(武豊町民会館) 隣きホール

チケット料金 前売券2,000円(当日券3,000円) / 学生券1,000円※未就学児入場不可
ゆめたるプラザ TEL 0569-74-1211
ミュージックメイトワイズ 知多半島駅前 TEL 0569-24-0675
チケットぴあ TEL 0570-02-9999 (Pコード: 184-375) http://pia.jp/t
お近くのチケットぴあのお店、サークルKサンクス、セブン-イレブン各店舗でも直接お買い求めいただけます。
お問合せ ネイティブアメリカンフルート セイメイおふいす TEL 0569-89-7127

武豊町陶磁器展(常滑市陶磁器会館内) 一青陶園展、八木孝幸、八日、午前九時~午後五時、材料費 各一個十円(限定なし) 〇B 展十日(木)~十五日(火)午前九時~午後五時 一青陶園展、八木孝幸、十七日(木)~二十二日(火)午前九時~午後五時 小松栄佳、中川貴子、二人展、二十四日(木)~二十九日(火)午前九時~午後五時

- 「十円ピコキ A.B」内容 それぞれの飛行機の飛び方の違いを感じながら作ります。材料費 各一個十円(限定なし) 〇A 〇B カラであそぼう、六日(日)午前九時~午後三時、対象はどなたでも、ただし小学生未満は保護者同伴 参加費 無料 〇C フラワー劇場、チケット発売二月十七日(日)午前九時~午後五時、午後一時半から、内容 プレジャーパークによるコメディ、クラウン・ミニ・サーカスの公演、入場料 四百円、満二歳以上全自由席、一人四枚まで、発売日 五日(土)から、発売場所 勤労文化会館、東部岡田公民館、ふれあいプラザ、地域文化センター、電話予約は不可 〇D ガヤリセラ (常滑市観光プラザ内) 十日(日)~十三日(水)午前九時~午後五時、午後一時半、午後五時、入場無料 〇E むくもり展、十八日(金)~二十日(日)午前九時~午後五時、午後一時半、午後五時、入場無料 〇F 陶芸展示、中村 陶芸品、ちやみん小物、古布創作展など 〇G ガヤリセラ (まるまろ) 森下宗則陶展、十一日(金)~二十日(日) (常滑市陶磁器会館内) 一青陶園展、八木孝幸、十四日(金)~十八日(火)午前九時~午後五時、午後一時半、午後五時、入場無料 〇H 知多家庭教師研究会、知多書道研究会、二十七日(日)~二十九日(火) 〇I 武豊町中央公民館 〇J 武豊町立図書館 〇K 武豊町立図書館 〇L 武豊町立図書館 〇M 武豊町立図書館 〇N 武豊町立図書館 〇O 武豊町立図書館 〇P 武豊町立図書館 〇Q 武豊町立図書館 〇R 武豊町立図書館 〇S 武豊町立図書館 〇T 武豊町立図書館 〇U 武豊町立図書館 〇V 武豊町立図書館 〇W 武豊町立図書館 〇X 武豊町立図書館 〇Y 武豊町立図書館 〇Z 武豊町立図書館

わが家のニューフェイス



川元 晴琉 (7才) 琉唯 (2才) 半田市春日町

| | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|----|---|---|----|----|---|---|---|----|---|----|
| 写 真 ・ 文 | し | い | く | サ | は | 今 | て | は | お | な | す | こ |
| | い | っ | れ | ツ | ッ | か | も | と | | 兄 | り | 。も |
| 川 | な | も | る | カ | ロ | ら | ら | ッ | ち | ま | す | う |
| 元 | っ | 早 | し | い | ッ | 染 | っ | て | ん | 。大 | ろ | 琉 |
| 瞳 | て | く | 絵 | を | ク | し | た | も | に | 好 | ろ | 唯 |
| | 思 | 学 | 本 | し | や | み | か | 染 | 幼 | き | オ | で |
| | っ | 校 | も | て | た | な | ら | し | 稚 | な | に | |
| | て | か | よ | た | た | ん | 4 | い | 園 | | | |
| | い | ら | ん | く | か | 。か | た | だ | | | | |
| 川 | る | 帰 | で | さ | い | 。お | ら | よ | | | | |
| 元 | ん | っ | く | ん | 。お | 兄 | 行 | っ | | | | |
| 瞳 | だ | て | れ | あ | っ | ち | く | て | | | | |
| | よ | 。て | る | そ | こ | ゃ | の | 教 | | | | |
| | | ほ | ら | で | 、 | ん | が | え | | | | |



愛と My Family



相川 葉大 (2才) 優芽 (1ヶ月) 昊輝 (4才) 常滑市飛香台

| | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|---|----|---|---|----|----|----|---|----|---|----|
| 写 真 ・ 文 | を | ぼ | い | に | や | と | か | る | お | な | す | こ |
| | 守 | く | よ | ぎ | い | ち | り | ん | | 兄 | り | 。も |
| 相 | っ | と | 。っ | っ | お | よ | だ | だ | ち | ま | す | う |
| 川 | て | 兄 | も | て | て | っ | だけ | 。兄 | ん | 。大 | ろ | 琉 |
| 絵 | あ | ち | う | く | て | と | ど | ち | に | 好 | ろ | 唯 |
| 美 | げ | ゃ | 少 | れ | で | 寂 | 、 | ち | 幼 | き | オ | で |
| | る | ん | し | て | ぼ | し | 幼 | 々 | 稚 | な | に | |
| | ん | の | 大 | 、 | く | い | 稚 | ん | 園 | | | |
| 相 | だ | 最 | き | と | の | よ | 園 | と | れ | の | か | ぼ |
| 川 | ！ | 強 | く | っ | 手 | 。の | に | は | た | 兄 | わ | く |
| | | コ | な | な | を | 。妹 | 行 | け | ば | ち | か | の |
| | | ン | っ | な | も | は | っ | り | か | ん | か | の |
| | | ビ | た | っ | ギ | ち | ち | の | り | と | ん | の |
| | | で | ら | わ | ユ | っ | カ | 妹 | の | と | と | 前 |
| | | 妹 | 、 | い | ッ | っ | ば | が | 2 | 生 | つ | は |
| | | | | | と | ち | う | い | ま | 上 | い | |



人と人をつなぐ
『かけ橋』になりたい



タオル・繊維商品及び輸入雑貨等総合卸

名城商事株式会社

愛知県名古屋市中川区乗越町1丁目37-3
TEL <052>362-1531(代)

脱!!ファンデーション

ホームエステMURATA
～ジェミー化粧品取扱サロン～



MENU

- クレンジングコース・・・2,000円 **30分**
洗顔だけでは落とし切れない毛穴の汚れを機械を使ってしっかりと落とします。
- リフトアップコース・・・3,000円 **40分**
ハンドマッサージの最中、お顔や首のシワ・たるみ・むくみを引き上げます。
- オリジナルコース・・・7,000円 **90分** →初回は3,500円とさせていただきます。
オールハンドでの施術によりリンパの流れを促進し、くすみ・お肌の根本的改善をおこなうことのできるツヤツヤのお肌。

ホームエステMURATA
エステシャン 村田まきよ
〒479-0833 愛知県常滑市走袋3-40
予約TEL 090-4859-7877
E-mail willing.hm-1012@vovweb.ne.jp



*その他コースやオプションメニューもございます。
*キープや無理な販売はいたしませんので、ご安心ください。



デュプロ販売株式会社 (名古屋)

東海・北陸地区発売元

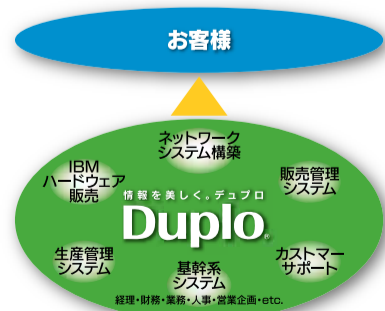


デュプロは
コンピュータネットワークを活用した、
お客様の新しいビジネススタイル
"e-BUSINESS"を提案していきます。

情報を美しく。デュプロ

Duplo

from print to documents



デュプロ販売株式会社

〒460-0015 名古屋市中区大井町4番19号 TEL (052)321-2020